

第 11 回 吹田市地域公共交協議会 議事要旨

日時:2025 年 3 月 19 日 (水) 14:00~16:00

場所:吹田市総合防災センター

6 階多目的ホール及び WEB 会議

1. 開会

事務局: 開会あいさつ
<省略>

2. 議事

事務局 【R6 年度事業成果本格実施について (資料-1-1、1-2) 説明】

委員 大阪府交通計画課

情報提供にはなりますが、ユニバーサルデザインタクシーの普及のところで、国と府と市からの補助事業だったのですが、今年度は吹田市から補助、実施していただきました。府内でいうと今年度、1000 台弱の新しい UD タクシーが導入されました。これで全体の約 21%まで達した状態となっています。議会での承認が前提ですが、来年度も引き続き、補助継続予定ですのでぜひご活用をお願いします。

会長 事業は順調に実施されました。利用者数にすると、やや厳しいところがありますが、吹田市コミュニティバスのひまわりルートなど一部伸びているところもありますね。

ひとまず、先に進みます。それでは、次第 2 の二つ目「シェアサイクルの本格実施」について事務局から資料 2 の説明をお願いします。

事務局 【シェアサイクルの本格実施について (資料-2) 説明】

会長 ご説明ありました通り、シェアサイクルは公共交通と競合するものではなく、共存するものということです。今後とも継続してもらいたと思います。

では次に、議事 3 つ目です。ここでは、現在、少子高齢化になってきているなかで、事業者様のお話として交通事業者近況報告をしてもらいます。では、まず事務局からご説明いただいてから始めたいと思います。

事業者 【交通事業者近況報告】

近鉄バス株式会社

当社では、今年度も約 30 人の運転手が不足しています。

今年度、約 30 人の新規採用がありましたが、ほぼ同数の離職がございまして結果的に増加となっていません。そのため、不足は時間外労働、休日出勤で対応しています。

この改善にむけて、一昨年 11 月運賃改定をして、その増収分を原資にして賃上げを実施するなど乗務員の待遇改善を図り、また、吹田市内ではありませんが、他市で、路線運休や減便により乗務員の負担軽減を図りました。

ご利用者には、運賃が上がる、便数が減るなどご迷惑をおかけしていますが、今後も同様の対応をとっていかざるを得ない状況となっています。

事業者 阪急バス株式会社

運転士の充足状況については、近鉄バス株式会社様と同じく非常に厳しい状況です。今年度も運賃改定を行い、処遇改善を進めていますが離職がとまらない状況にあり、今年度は約 40 名程度の運転士を採用できましたが、定年退職等を含めるとその倍以上が離職しております。

当社はほぼ路線バス専業のため、要員が減った分については減便と路線廃止を行わざるを得ず、具体的には近隣の豊中市の路線のほか、その他の路線についても今年度末から来年度にかけて減便と路線廃止を計画しています。なお運転士の処遇改善については、引き続き進めていかなければならないと考えており、更なる運賃改定も視野にその原資を確保しなければならないと思っています。また、採用活動についても、様々な施策を実施しながら取り組んでいきたいと思っています。

事業者 JR 西日本株式会社

弊社の現状についてお話す前に、吹田市様のご支援を頂きまして JR 吹田駅のホーム柵が計画的に進められており、安全の確保に向けてさらなる対策が進められていることにつきまして吹田市様に感謝申し上げます。

改めまして、弊社の近況ならびに駅における販売体制の変化につきまして、ご説明いたします。

コロナ以前とはいいませんがだいぶ戻って参りまして、収入も 1 月の対前年度比で 109.1%、2 月 14 日時点の短期で 103.9%、新幹線の利用状況が 1 月の対前年比で 104%、2 月 14 日時点では 99%、このあたり近郊エリアですと 1 月の対前年比が 105%、2 月 14 日現在で 102%です。

年末年始から引き続き、インバウンドのお客様も含めて好調に推移しているところ です。

2 月においては大雪による影響により新幹線はほぼ前年と同様程度でございます。

2025 年は、大阪・関西万博が 4 月 13 日より開催され、多くの方が西日本エリアにお越しいただけることから、引き続き安全な輸送に努めて参ります。人材確保につきまして、当社におきましても想定する社員の確保が困難な傾向となりつつあります。そのため、駅の販売体制見直しを進めております。お客様に駅にお越しいただくなくても、いつでもどこでも、ご自身でご対応いただけるシステムの提供等でご不便をおかけしないようにしつつ、便利でお得な商品であるチケットレスサービスなど提案しております。

(配布物 チケットレスサービスの説明)

会長

他の事業者の方、いかがでしょうか。

JR さんは利用者が増えているように思いますが、いずれも大変な状況が提示されていることがわかりました。みなさまいかがでしょうか。

会長

中間見直しについて助言がほしいと事務局からお願いされているので、それについて述べます。

富山県の公共交通計画で掲載されている「投資と参画」です。これは吹田市も同じで、バス停整備していることなどもそうですが、維持できないところは「投資」、「参画」は今年度制度として整備いただいた地域コミュニティのガイドラインを適用していく、これが大きいと思います。まずは、これを実施していくのが大事かと思います。

あとは、人手不足についてですが、これはどの業界も同じです。さきほど運輸局の方と話ししていましたが、実はトラックも人手不足です。

BtoB でしているので消費者には伝わらないが、人手不足が明確になるところですね。何がいいかといいますと、どこも人手不足なのですね。大学も行政もそうです。これが少子高齢化で人手の取り合いになっていることだと思います。だからこそ、どの分野が大切なのか明確にしていく必要があります。

私も 20 年近く吹田市の公共交通計画に携わっています。着実に検討されていて、公共交通のどこが弱いのか着実に分析されています。しかし、10 数年前と状況が変わっていて、マンションの自主運行のバスは取りやめになりました。もちろんプラス面もありまして、大阪東線の開通、十三高槻線の整備もあります。そういう環境面も考慮しながら、また、事業者の努力だけではなく我々が踏み込んで考えていかなければならないと思います。

まとめますと、ひとつは「投資」と「参画」を進めましょう、次に、環境が変わってきたこともありますので何が変わっているのか実態を把握すること、あとは事業者、行政、市民、皆で取り組む必要があります。

そのために、吹田市にとって大事な幹となる路線はどこなのか、足りないところは吹田市コミュニティバスをあわせながら利用していくなどを考えなければならぬと思っています。

2024 年問題、2025 年万博が終わり、それらが落ち着いてから、その後に 10 年、20 年後を見据えて中間見直しを考えられますので、いま私自身、具体的な解決策を持ち合わせておりませんが、今後も皆さまと議論していきたいと思っていますので、来年以降もどうぞご協力お願いしたいと思います。

葉先生はいかがでしょう。

副会長

私も猪井先生と近い考えを持っております。たとえば、市は市の事業、交通事業者は交通事業者の事業、そして市民さんは便利であれば公共交通を使う、便利でなければ使わない、これらが離れてしまっていては、総合的に考え

て人手不足もそうですし、財源もそうですし、あるいは利用者数が減っているという状況、これらの解決策は見出しにくいと思っております。各主体の連携がおのずと必要となってきますし、それを議論する場がこの地域公共交通協議会であり、計画のなかにしっかり位置づけしていくことが重要であるということを重ねてですが申し上げます。

人手不足、あるいはネットワークを維持するという観点では、必ずしも、吹田市単体で考えられることでないとは個人的には考えている。各交通事業者も、吹田市内だけで運行しているわけではないので、大きな効果を得るには連携が必要です。

加えて、ネットワークについても、路線バス、電車もそうですけど市内で閉じているものではないので、近隣市町と協力できることはすることが北摂においては重要です。幸いにも、北摂はまだ人口減少は喫緊の課題ではないと思いますので、できるだけ連携して取り組む体制ができるといいと思います。人口が急激に減少してから仕方なく取り組むよりも、20年、30年を見越していずれ人口は減るわけですので、それを見越してどんなかたちでもいいので、人材確保の観点からも少しずつ連携ができればよいと思っています。以上です。

会長 ありがとうございます。

 奈良県と富山県は、県の地域公共交通計画をもっています。バス、鉄道は市域をまたいでいるので、路線の話はもちろん、人手不足というところで、豊中市に住んでいる方が吹田市で働くことも可能ですので、そのあたりは一緒にやっていくべきです。個別の公共交通計画を組むスペシャルな部分と基礎的な部分、市町村が独自で取り組むのもひとつですが、それとともに都道府県で取り組むことにもぜひ期待したいと思います。

委員 大阪府交通計画課

 担い手不足については、地域だけで運転手を増やしても結局、他の市域でも走っているんで、今年度は、秋に茨木市を中心に、ハローワークと連携して事業を実施しました。2月にも豊中、池田、箕面、能勢豊能のエリアでハローワークと連携して事業を実施しました。吹田市でも同様の事業実施の相談をしていましたが、ハローワークの管轄の関係で、吹田市は淀川ハローワークが管轄となりますが、現在の連携が難しいということでいまは実施できておりません。

事務局 はい。事務局としても、課題があるなかで取捨選択して中間見直しをしていきますので今後ともよろしくお願いします。

事務局 【今後のスケジュール（資料-3-1、3-2）説明】

会長 ありがとうございます。全般含めてご質問、ご意見いかがでしょうか。

アンケート調査も大事かと思いますが、すでに走っている計画を大きく変えていくのは難しいので、データをちゃんと取る、情報調査をする、いわゆる全体的な数だけではなく、どこからどこが乗っていて、乗っていないのか状況を把握することが実は大事だと思います。むしろ、アンケート調査は最後の方でよいとも思います。

見直しスケジュール、問題点共有が肝であり、事業者とディスカッションして利用者のデータを把握する。アンケート調査というのは、どう変わるのかを聞きたいならば良いが、異動実態というのはアンケート調査ではわからないのではないかと思います。

同じお金をおかけなのであれば、バスも電車も OD をとって、どこからどこへ乗っているのかを把握して、どこに手を入れるのがよいかを考えることに時間をかけた方がよいともいます。

来年度、再来年度にかけて協議会が5回しかないので、うち1回アンケートの企画説明があつて結果報告があるよりは、事業者から意見を挙げて頂く方が大事だと個人的には思います。事務局でご検討ください。

アンケート調査よりも、公共交通の利用者数を捉えていくことが大切です。移動実態をとりたいのでアンケートをとるというのは理解ができますが、それよりも、バスでどこからどこへ乗っているのかを把握するほうが大事。個人的な意見ですので、事務局で検討してください。

アンケートに時間やコストをとるよりも、何を対策としていくのかを把握することを優先させてください。アンケート調査を実施するにしても、内容について皆さまのご意見伺いながら実施していくつもりなので、ご協力お願いいたします。

事務局としても、アンケートの内容について事業者、市民のご意見を伺いながら丁寧にしていきたいのでよろしくお願いします。

5. 閉会

事務局：事務局からお知らせがございます。由井委員は本日、本協議会委員を退任されます。由井委員、ご挨拶の方をお願い致します。

委員 市民委員

市民公募委員として、4年間お世話になりました。知らなかったことをたくさん勉強させていただきました。特に心に残ったのが、いろんなところにロゴがでていた「みんなで支え未来へつなぐ公共交通」これが印象に残った言葉でした。これからもみなさんのご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

事務局 閉会あいさつ
＜省略＞

以 上